

# 国語科（言語文化）学習指導案

指導者 ○○ ○○

- 1 履修単位数 3単位  
2 実施日時 令和5年10月 日( ) 第 時限  
3 学 級 ○○HR (○○名)  
4 使用教科書 高等学校 精選 言語文化 (第一学習社)  
5 単元(題材)名 和歌の現代語訳や考察を通して、伝統的な言語文化への理解を深める。  
(『万葉集』・『古今和歌集』・『新古今和歌集』)

## 6 単元設定の理由

### (1) 生徒観

○○HRの生徒は学習意欲が高く、授業で学んだ知識をもとに自分の考えを深めようとする態度がうかがえる。これまでの授業では、物語や随筆を読みながら、古典文法の習得や本文の内容理解を中心に取り組んできた。どの学習活動にも真面目に取り組むが、登場人物の心情や作者の意図を考察する場面では模範的な解答をすることに重点を置くあまり、積極的に発言したり書いたりせず、やや受け身な様子も見受けられる。

### (2) 教材観

和歌はわが国の伝統文化の一つであり、そこに表現された人々の思いや感性は、現代にも通ずるものがある。本単元では、日本最古の歌集である「万葉集」、掛詞や縁語といった修辞技法を駆使した作品の多い「古今和歌集」、前代の秀歌から影響を受け、その表現の一部を巧みに取り入れた「新古今和歌集」の三歌集を取り上げる。それぞれの作品の特色や時代背景、修辞技法とその効果について学ぶことは、伝統的な言語文化への理解を深めることに適していると考え、本単元を設定した。

### (3) 指導観

和歌は限られた文字数に心情や情景が表現されており、読み味わうためには既習の古典文法の知識はもちろん和歌の修辞技法を理解することが必要である。まずは修辞技法などの和歌の基本的な知識を学び、名歌を鑑賞することで、我が国の伝統的な言語文化への理解を深めさせたい。そして言語活動を通し、作品に込められた人の「心」を読み取るなかで、時代を経ても色褪せない魅力や、普遍的な人間の感情を理解させ、和歌の鑑賞のおもしろさに気付かせたい。

## 7 単元の目標

- (1) 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。 [知識及び技能] (1) オ  
(2) 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) イ  
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

## 8 本単元における言語活動

現代語訳をふまえ、三歌集のそれぞれの和歌に表れている恋の「心」について考察したり、話し合ったりする。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] B (2) エ)

## 9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ((1)オ)	①「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 (B(1)イ)	①今までの学習を生かして和歌の表現技法とその効果について理解し、三歌集に描かれた表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、他者と積極的に伝え合おうとしている。

## 10 指導と評価の計画 (全4時間)

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第1次 (1時間)	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」についての文学史的な知識を理解する。 ○和歌を鑑賞するために必要な修辞技法を理解する。	「知識・技能」① 「記述の確認」
第2次 (2時間)	○三歌集から和歌を何首か取り上げ、解釈・鑑賞し、それぞれの和歌の趣旨や表現の特色について理解する。 ○大伴坂上郎女、小野小町、慈円の和歌を一首ずつ取り上げ、現代語訳に取り組む。	「思考・判断・表現」① 「行動の観察」
第3次 (1時間) 本時	○前時に現代語訳をした三首から一首を選び、その和歌に描かれた恋の「心」についての考察をワークシートに記入する。 ○班ごとに発表する一首を選び、スライドを作成し、全体で発表する。 ○ワークシートの振り返り欄に、単元を通して得た学びなどについて記述し、単元全体の学習を振り返る。 (本時)	「思考・判断・表現」① 「記述の分析」  「主体的に学習に取り組む態度」① 「記述の確認」

### 11 本時の目標

大伴坂上郎女、小野小町、慈円の和歌について、どのような恋の「心」が表現されているのかを和歌の趣旨に即して考察することができる。

### 12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 5分	○本時の目標を確認する。	○前時の活動を確認し、本時の目標を理解させる。		
展開 35分	○三首の和歌から一首を選び、その和歌に表現された恋の「心」や具体的な情景を考察し、ワークシートに記述する。	○和歌の趣旨をふまえた上で、柔軟な発想で「恋心」を考察するよう指示する。	「思考・判断・表現」 ① ・和歌の趣旨をふまえた上で、そこに表現された恋の「心」や情景を記述している。	「記述の分析」 ワークシート
	○班で意見交換し、どの和歌について発表するか・発表する内容について話し合う。	○机間指導を行い、グループ内の全員が意見を述べるよう指示する。		
	○ MetaMoJi ClassRoom の協働学習機能を用いて班ごとに発表用スライドを作成する。各班の代表者1名が、電子黒板に表示されたスライドを用いて発表する。	○発表用スライドは予め配付したひな形を使用し、各班で1枚にまとめさせる。  ○発表内容がより伝わりやすくなるよう、文字に色をつけたり、線を引いたりしてもよいと伝える。		
	○各班の発表と授業者による補足説明を聞き、三首の和歌の趣旨を理解する。	○生徒の発表に適宜補足を加え、理解を深めさせる。		
まとめ 10分	○本時のまとめを聞く。  ○ワークシートの振り返り欄に、この単元で学んだ内容について記述する。		「主体的に学習に取り組む態度」① ・和歌の解釈や考察を通して、伝統的な言語文化への理解を深め、関心をもとうとしている。	「記述の確認」 ワークシート

### 13 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	読み取った和歌の趣旨から、そこに描かれている恋の「心」について想像し、具体的な情景や心情を言葉で表現することができている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	机間指導を増やし、適宜助言を行う。自分や友人の体験だと仮定して想像させ、自由な発想で書いてみるよう促す。